



大阪湾フェリー「みづほ丸」に乗り入れ、  
最後の別れをする関係者

電化完成時の安全運行システムは、「通票閉塞式」と呼ばれ、俗称を「タブレット」と呼ばれた。一定区間内は、一列車のみ通過させるが、「タブレット」のない列車は通過させない方式であった。丸型の鉄製のリング(直径が30~50cm程度と記憶している)に小型の皮製のカバンが付き、通票(メダル状のもの)を入れ、駅長・助役が車掌に手渡し、前区間のタブレットを代りに受け取った。操作機は重厚な赤色で、そして広くない駅舎内で、駅長のデスクの横に、堂々と鎮座していた。カバンから出された通票は必ず操作機に戻された。

記

号音と共に二駅連動で通票が出て来る仕組みであった。

特急・急行等は、二つのタブレットを車掌と駅員が相互に受け取った。構内は徐行とは言え、かなりのスピードで通過したので、ショックなく受領するのは、相当な技術を必要としたものでした。この方式は旧国鉄の各支線でも使用されており、自動列車制御装置(ATC)等の存在しなかった時代には、これが主流であり、国鉄・私鉄の各線で長く使われた。特に姫新線・津山線等では、プラットホームの両先端に、タブレット受領用のポールが長く取り残り、車両側にも収納式の腕木が取り

## 笑えない本当の話

筆記 満州雄

